



Report

令和2年度 定住外国人支援事業 日本文化体験講座

え て が み ね ん が じ ょ う か
絵手紙で年賀状を書こう

たいせつ かた え て が み
—大切な方に絵手紙を—



11月8日(日)、定住外国人支援事業の日本文化体験講座「絵手紙で年賀状を書こう」を開催しました。当日は市内在住の定住外国人12名にご参加いただきました。

講師には、毎年姉妹都市受入事業でご協力を頂いている『蟻灯の会』の照井満喜子さんをお招きしました。照井さんは、2006年姉妹都市交流事業で絵手紙を教えるメンバーの1人として、ホットスプリングス市を訪問したことがあり、言葉が通じない方とも絵手紙を通じて交流することができるスペシャリストです。今回も、満喜子さんには情熱的で豊かな表現を交えながらご指導いただきました。

え て が み こころえ ふて つか かた
①絵手紙の心得・筆の使い方



絵手紙を始める前に、知っておくべき大切な心得をわかりやすくボードを使いながら説明。説明のあとは、筆の使い方の練習です。直線やうずまき等いろいろな種類の線を半紙に書いて練習しました。



②モデルを見て描く

描く題材を決めたら、いよいよスタート！下書きなしのぶつつけ本番です。下書きができないことを知りザワザワしていたみなさんも、始まったら真剣モード。ゆっくり線を大切に描いていました。



③色ぬり・言葉を書いて仕上げ♪

色は余白を残すようにぬり、好きな言葉を書き入れます。その後、大小さまざまなハンコを押して完成！

それぞれの味が出ている、とても素敵な絵手紙が完成しました♪



④絵手紙の送付

完成した絵手紙の年賀状はそれぞれ大切な方に発送されます。



講師の照井満喜子さん、参加者のみなさん
ありがとうございました。



Chika のインドネシア体験記②

※インドネシアに赴任した体験をレポートします。

☆私が住んでいた当時のローカルな乗り物事情編☆

おすすめ第1位 私が1番利用した乗り物

「ベントール」ゴロンタロにしかない乗り物



特徴

近場の利用に最適。基本的には前のシートに座る（ヘルメットいらない）。運転手の後ろにも座れる（ヘルメット必要）。モーターバイクを改造して作られている。

運賃

近場だと約20円。少し遠出だと事前に値段交渉する。降りる時に代金を支払う。お釣がないことが多いのでなるべくキッチリ準備して支払う。

乗り方

流しのベントールがあるので探して手をあげ目的地を告げる。最大限に乗ると小さい子供は前に6人、後ろは

運転手の他に2人乗車可能。しかし重すぎて側溝に落ちているベントールを見たことが何度も。。なので大人数での利用はおすすめしません。シートベルトはないので事故にあった場合は外に投げ出されます。乗る際はスピードを出さないようにと運転手に伝えましょう。

予備知識

みんなカッコいいベントールに乗りたがる。カッコいいとは、装飾がきらびやかで夜に電球が赤や緑に光る。ちなみに過保護なホストファミリーの両親により私には専属ベントール運転手がいました。（笑）

おすすめ第2位 遠出には便利

「アンコット」



特徴

小型の路線バス。遠出する際に利用。人・物・家畜など乗せられるものは何でも乗せる。ドアは開いたまま走行。

運賃

私が住んでいた場所から州都があるゴロンタロ県まで（約100km）片道約250円。値段は決まっている。降りる時に運賃を支払う。

乗り方

アンコット専用の待合所にベントールで行く。運転手がどこ行きと叫んでいるので、

めあてのアンコットに乗る。降りる場合は、「ムカジョーオム」と大声で叫ぶ。直訳すると「おじさん前」ついたから降りてという意味。

予備知識

「何でも乗せます」がモットーなので生きた鶏を手を持っていたり、足元にアヒルや鶏がいることも。生きたヤギが乗っていた時はさすがにビックリ。袋に入れたヤギを車の屋根の上か、背後に縛りつけているのをよく目にしました。

Chika プロフィール

現在（公財）花巻国際交流協会事務局員として勤務

2010年～2012年までの2年間インドネシアゴロンタロ州ボアレモ県に栄養士隊員として派遣される。

首都ジャカルタよりボアレモ県まで直線距離で約2,300km。

ジャカルタから飛行機で（約3時間）→

ミニバスに乗り換え（約3時間）→ボアレモ県に到着



の乗れるだけ乗客を乗せるので、客はぎゅうぎゅうになって座る。サイドブレーキにお手製の板を敷いてそこも座席に早変わり。足の置き場がなくずっと体育座り、掴まる場所がないので車の天井に手をかけてじっと耐える。ダッシュボードがないシンプルな車や毎回配線を繋げてエンジンをかける車、「えっそれ動くの?」という車まで現役運行中。道路事情はあまり良くない上、運転手がかかり飛ばすので目的地に着くころには体がガチゴチに。運転手が山道や急カーブでクラクションをひっきりなしに鳴らす（自分の車が走っていると対向車に知らせる合図）ので走行中は騒音との闘い。慣れたら気にならない。ローカルな雰囲気を楽しむにはお勧めの乗り物。

※スリにはご注意ください。貴重品の入った荷物は必ず前に抱きかかえるべし。

☆ホストファミリー編☆



私のホストファミリーはパパとママ・兄妹のカカとサンディーそしてお手伝いさんのチゴの5人。



パパ

日本でいう工業高校
や農業高校のような
実業学校の先生



ママ

助産師。赴任先の県保健
局の母子保健課の課長。
自宅で助産院経営。

サンディー

私のことをカカちか（ちかお
姉ちゃん）と呼んでくれる可
愛い妹。



カカ

カカとはお兄ちゃんという意味。家族全員
がカカと呼んでいた。当時25歳の私もカ
カ（お兄ちゃん）と呼んだ。10歳も
下の男の子をお兄ちゃんと呼ぶのに疑問を
覚えた。しかし大きな虫が部屋に出たとき
助けてくれるのはカカ。



チゴ

住み込みのお手伝いさん。インドネシア語が少ししか話せず、最初は
コミュニケーションがとれず苦労した。私がゴロンタロ語を覚えてか
らは友達のような存在に。今でも一番に会いたいチゴ。

日本人を初めて迎え入れたので私は過保護にされました。一人では家から出してもらえないという生活
が2カ月ほど続きました。家族がお祈りのためモスクに行くときは、Chika が盗まれないように鍵をかけ
て出ていく徹底ぶり。そんな私が自由を求め購入したのが自転車です。ところが最初パパとママの
大反対にあいました。当時のボアレモ県では、自転車は低所得者が乗るものというイメージがあったから
です。それに加えて自転車ごと Chika がさらわれると不安がりました。通勤は決まった道路を走ること、
知らない人とは話さないという条件付きで許可を貰いました。心配性のパパが付き添いで予行練習をし
たのはもちろんです。まさかインドネシアで箱入り娘になるとは。。。

次回はよりディープな体験記③を乞うご期待!!!



～協きょう会かいからのお知しらせ～



●第1回多文化サロンについて●

12月19日（土）に開催予定でした第1回多文化サロン「The Art of PERUVIAN CULTURE」は、新型コロナウイルス感染者が花巻市内でも発生したことを受け、中止することを決定しました。

●国際フェアについて●

例年12月上旬に開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け例年の様なイベント開催は行いません。代わって「ベルンドルフ市花巻市友好都市提携55周年、ラットランド市花巻市姉妹都市提携35周年」記念展示などを実施する予定です。

詳細につきましては、後日STARWINGや当協会ホームページでお知らせ致します。

●協会の年末年始業務について●

花巻国際交流協会は、2020年12月29日（火）から2021年1月3日（日）まで年末年始のため休業させていただきます。

本年も国際交流事業の推進にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。2021年もどうぞよろしくお願い致します。



Library News



当協会では、一部の本の貸し出しをおこなっております！是非、交流会館まで足をお運びください。※尚、

雑誌はバックナンバーのみ貸し出しいたします。（2週間）＜定期購読雑誌 最新号の内容＞

・Hiragana Times –ひらがなタイムズ–

「日本文化の旅（日本酒）」

・News Week 日本語版

「BTS が変えた世界」

・ENGLISH JOURNAL（CDは館内でのみ貸出可能）

「世界を創ったイギリス文化論」



※「この本を入れて欲しい」「こんなテキストがあったらいいな」という皆さんの声をお聞かせください。

問合とあせ先

〒025-0004 岩手県花巻市葛第3地割183番地1
TEL：0198-26-5833 FAX：0198-26-5855
E-MAIL：kokusai_staff_c@ext.city.hanamaki.iwate.jp
HP：http://hanakokusai.wordpress.com
開館時間：8:30～17:30 休館日：土日祝祭日、年末年始

